第 37 回 安田女子大学・安田女子短期大学 エッセイコンクール

自由部門
学長賞「熊本地震を経験して」
家政学部 生活デザイン学科 2 年 2 組　澤田 奈苗

私には将来の夢がある。私は建築士になる事が夢である。ただ建築士になりたいのではなく、私は安心できる建物をつくる建築士になりたい。私がそう思ったのはある出来事による。

私は熊本県出身である。大学で広島に来るまで熊本に住んでいた。私は熊本が大好きだ。自然が豊かで程よく都会で歴史もある。おいしい食べ物が多くて、水もおいしい。でも 1 つ怖いことがある。それは地震だ。

私が中学校に入学してすぐの 4 月最大震度 7 の熊本地震が起きた。全壊約 8300 棟、住家被害計が 16 万棟。 また、最大約 45 万戸断水、約 48 万戸停電、約 11 万戸ガス供給停止となり、交通網も道路や鉄道、空路が一時不通になるなど、大きな被害が発生した。私は 14 日の最初の揺れのときお風呂に入っていた。今まで地震を経験したことがなかった私は、浴槽のお湯が急に揺れだしたことに動揺して動けなかった。保育園の時から地震の際の避難訓練はたくさんした。それなのにいざその時になると動揺で何もできなかった。下から突き上げられるような揺れがすごく長く続いたように感じた。はじめは何が起きたのかわからなかった。地震だとは思わなかった。怖かった。15 日の夜、居間で家族と一緒に寝た。私が部屋の端で寝ようとしたところ、祖母がそこでは寝るなと注意した。何故なのか分からなかった。その日の夜中に 1 番大きな揺れが起きた。食器が棚から流れ出て床は破片でいっぱいだった。私が寝ようとしたところには花瓶が落ちていた。そこは神棚の下だった。祖母に命を助けられた。私の部屋に行くと貰ったばっかりの新品の教科書が部屋に散らばっていた。部屋に入ったヒビは今でも地震が来る度にきしむ。次の日の夜は近くの小学校に避難して車中泊をした。怖かった。当時自宅は築 20 年の家だったが、壊れるのではないか、大切な思い出が全て無くなってしまうのではないか、そんなことばかり考えながら寝た記憶がある。祖父母とよく遊びに行った熊本城も大きな被害を受けたことをテレビで見て大きなショックを受けた。熊本城の奇跡の 1 本石垣をご存知だろうか。飯田丸五階やぐらの石垣が地震により崩れたのだが、かろうじて一筋の石垣により支えられ、やぐらが崩れるのを防いだ。この石垣で多くの人が励まされたと思う。私自身もとても感動した。

地震の数週間後、学校に一人の同級生が転校してきた。被害が一番ひどかった益城町からきた子だった。家は半壊で住めなくなったそうだ。改めて地震の恐ろしさを感じた。

私は熊本県立第一高校出身なのだが、高校は熊本城のすぐ近くにある。毎日熊本城の横を通りながら通学して復旧作業が着々と進んでいるのを見てきた。石垣を戻すために崩れた石のひとつひとつに番号が振られていた。とてつもなく大変な作業だと思った。すごいと思った。かっこいいと思った。私も建築に関することがしたいと思った。

熊本地震を経験して、私は建築士になりたいと思うようになった。小さいころからシルバニアファミリーなど家具を自由に設置する遊びが好きだった。今でもたまに遊びたくなるくらいだ。他にもニトリなどの家具屋さんや電気屋さんで、家具や電化製品を見て理想の家を想像するのが好きだ。でも現実ではただ好きなように家を建てることはなかなか難しいと思う。私は自分の理想を残したまま地震の多い日本でも安心して暮らせる家を作りたい。家は自分にとっても家族にとっても、思い出がたくさん詰まった大切な場所だと思う。そんな大切な場所を自然災害で失ってしまうのはつらいことだ。そんなこと起きてほしくない。今後 30 年以内に南海トラフ巨大地震が起こると予想されている。震度 7 の地震が再び来ることを考えるだけで恐ろしい。被害を最小限にするためには家が人を守ることが大切であると思う。家は住むだけの場所ではなく、そこに住む人を安心させてくれる場所であるべきだ。

私の一番大きな夢は、海外で建築士をすることだ。日本だけではなく海外の国でも地震が起き多くの死者を出したニュースを見た。日本のように対策がされていない建物が壊れ、被害の大きさに驚いた。それを見て私が助けたいと思った。日本で自然災害に強い建築を学び、たくさんの経験と知識を身につけて、将来は日本の技術を海外で生かして働きたい。また地震の恐ろしさを伝えていきたい。そのために、これから大学で建築の知識を身につけ、英語の習得も頑張りたい。